

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.76		坪沼地区		生物地理区分		コナラ林(東日本)	
				地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	宮城県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地	
	市町村	仙台市		4.低地	5.その他()		
	集落名称等	坪沼	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田	
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池	
			7.池沼・湿地		8.社寺林	9.人工林	
			10.その他(竹林)				

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
都市計画区域の市街化調整区域、農業振興地域	
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
	風景探勝や撮影の来訪者が多い



写真の説明:家々が小高い山裾に点在する農山村風景(田植え後の風景)



写真の説明:家々が小高い山裾に点在する農山村風景(収穫の秋)

NO.76		坪沼地区		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	宮城県			2.団体・企業・学校等
	市町村	仙台市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	坪沼			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称		やるっチャツボヌマ	
	その他の主体の名称		仙台市	
目的 :主 :その他	1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)			
	対象・取組内容		<p>坪沼地区は、仙台市南西部の都市近郊に位置し、里山が残り、夏には蛍の飛び交う自然豊かな環境の中で農林業や畜産が営まれ、農作業などを行う際にお互いに助け合う「結い」の心が活かされている地域である。</p> <p>しかし、他の地域同様、担い手の減少や高齢化などの理由から耕作放棄地が増加し、農地の荒廃や里山の機能を減少させ、地域の活力も失いつつあった。このような現状を打開し地域の再生を図るため、住民による地域団体「やるっチャツボヌマ」が組織され、米・農産品・山を中心とした産物の生産振興と自然環境の保全、広く市民に親しまれる交流の場の創造、各種イベント企画などにより、地域活性化とコミュニティ推進を図る活動を行っている。</p> <p>活動の特徴は、市民との交流事業を主体とし、栽培指導型農園の開設、収穫祭、たけのこ掘り体験、そば栽培・そば打ち体験、炭焼き体験など豊富な地域資源を最大限に活用し、交流や地域の魅力発信に努め、人口の減少や農林業の停滞解消に積極的に活動している。</p> <p>このような地域に対し、仙台市として、栽培指導型農園の開設費や収穫祭開催費に助成するとともに、専門的な知識を有する人材を派遣し地域団体等が独自に事業の計画と運営ができるよう支援してきた。</p>	
	支援措置			
	5.地域の良好な景観の保全・修復			
取組内容		<p>仙台市の近郊に位置し、昔と変わらぬ里山の風景が残っているのが坪沼地区で、山々に囲まれた盆地の中央に鎮守の森があり、新緑や稲が黄金色に輝く季節には、特に美しい景色が眺望できる。また、水の文化研究所が発行する「水田は文化と研究を守る」と題した、2007年版日本の米カレンダーの表紙と6月版に坪沼地区の鎮守の森が紹介、掲載された。</p>		
6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承				
対象	生活行事	*	坪沼八幡神社大祭、蛍と平家琵琶の夕べ、坪沼祭ばやし	
	資源利用技術	*	市民を対象とした、たけのこ掘り・炭焼き体験	
	その他	*	学校と地域が連携した米づくり	
取組内容		<p>住民の手づくりで始まった「蛍と平家琵琶の夕べ」の開催や小学校の児童も参加して行われる「坪沼祭ばやし」など、地域コミュニティの推進と活性化が図られている。また、次代を担う子どもたちへの教育も熱心で、小学校と地域が連携して米づくりや祖父母と一緒に縄跳び教室などを通し、自然の大切さと情操教育を実施。</p>		
連携・協働による取組内容・役割分担等		<p>住民主体の地域団体「やるっチャツボヌマ」が、地区として一番の資源である農林業を基軸とした栽培指導型農園開設や収穫祭などの活動を行うことができるよう、仙台市として開催費の一部助成のほか、専門的な知識を有する人材の派遣支援も行っている。</p>		
取組の特徴や強調したい点		<p>地域住民の交通手段であったバス路線の廃止に伴い、子どもや老人の足を確保しようと、地区独自に事業費を確保し「乗合タクシー」の運営を行っていることなどで、地域愛の深い、素晴らしい環境を持った地区として、市内や各方面から注目を受けている。</p>		

取組の概要	里地里山の景観を活かして都市との交流進め、地域活性化・文化伝承へ	課題グループ
事例の特性	都市との交流に向け資源としての農村文化活用	農林業 景観文化

取組の中で他の地域の参考となる点	「結い」の精神が生き続ける農村地域で、豊かな地域資源を活用し都市住民との交流活動に取り組む。栽培指導型農園開設や各種体験事業のほか、小学校と地域が連携した米づくりや生活文化の伝承などにより地域活性化を目指す。	
------------------	--	--